

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26283014

研究課題名(和文) 日本軍「慰安婦」制度と米軍の性売買政策・性暴力の比較研究

研究課題名(英文) comparative study on the Japanese military comfort women system and us policy to sex trade and sexual violence

研究代表者

林 博史 (HAYASHI, HIROFUMI)

関東学院大学・経済学部・教授

研究者番号：80180975

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本軍「慰安婦」制度と米軍の性売買政策・性暴力の比較研究をおこなうことを目的として本研究をおこなった。米国や英国などの公文書館や図書館などにおいて、関連史料を多数収集することができた。また各国の研究者との研究交流をおこない、研究協力のネットワークも作ることができた。こうした研究活動を通じて、日本軍のケースと米軍のケースについてその相違についてかなり把握できるようになってきた。同時に、日本軍「慰安婦」制度を世界史のなかで位置づけるためには日米比較だけでは不十分であり、欧州や韓国を含めて国際比較が必要であることも強く認識するようになった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of our research was to conduct a comparative research on Japanese military 'comfort women' system and US policy to sexual trade and sexual violence. While we have made a collection of related documents from archives and libraries in the US and UK, we conducted workshops with researchers of several countries and made networks with them. By such academic activities we have enhanced our recognition of differences between Japanese and US cases. At the same time, we have come to understand that the comparison between Japanese and US cases is insufficient in order to give the proper place to Japanese military 'comfort women' system in the world history and that it would be necessary to make an international comparison including European and Korean cases.

研究分野：現代史

キーワード：性暴力 性売買 軍隊 帝国主義 植民地主義

1. 研究開始当初の背景

日本軍「慰安婦」制度については1990年代以来、日本軍・政府資料や日本軍将兵の戦記・回想、元「慰安婦」や関係者の証言、米英中蘭など連合軍側の資料、戦犯裁判関係資料などの調査と、それらの諸資料の分析により詳細に明らかにされてきていた。米軍の性売買政策については近年ようやく日本でも研究が進みつつあった。

しかし日本軍「慰安婦」制度は世界史的に見た場合、どのような位置にあるのか、特に第二次大戦中、ならびにそれ以降、世界各地に駐留する米軍の性売買に対する思想・政策との共通性と差異は何かという問題はまだまだ十分に解明されているとは言えなかった。駐留する国・地域ごとの米軍の性売買政策の差異についてはまだまだ未解明であった。

軍隊の性売買に対する政策は、その軍隊の所属する国家・社会の性売買に対する思想・政策と密接に関連しているが、そうした観点からの研究もまだ不十分であった。

こうした状況下で、日本軍「慰安婦」制度、日本の公娼制、米軍ならびに米国における性管理・政策について、史料調査や研究の蓄積が進みつつあり、それらを総合し、かつ比較分析する条件が整いつつあった。

2. 研究の目的

以上のような研究状況の下で、本研究は日本軍「慰安婦」制度と米軍の性売買政策・性暴力の比較研究をおこなうことを目的として出発した。

軍の性売買に対する思想と政策は、その国の性売買に対する国家の政策と密接に関連している。そこで日本軍「慰安婦」制度と公娼制との関連の分析、米軍の性売買政策と米国の政策との関連の分析、ならびに日本と米国の性売買に対する思想と政策の比較分析をおこないながら、上記の主題の比較研究をおこなうことを目指した。米軍の性売買政策は駐留する地域の性売買のあり方とも密接に関連しており、日本や米軍支配下の沖縄、その他の国・地域の比較研究もおこない、そうした研究を通じて、世界史的な視野で、日本軍「慰安婦」制度と米軍の性売買政策・性暴力を比較し、それらの特徴を明らかにすることを目的とすることとした。

3. 研究の方法

史料に基づいた実証的な研究を進めるために、米国の国立公文書館をはじめ各大統領図書館や海軍歴史遺産本部、ニューヨーク公共図書館、カリフォルニア歴史協会、カリフォルニア大学バークレー校図書館、サンノゼ州立大学図書館、サンフランシスコ公立図書館ならびに英国の国立公文書館、英国図書館、ロンドン大学LSE図書館女性図書館、Wellcome 図書館などにおいて米軍ならびに英軍関連資料の調査をおこない、資料を収集した。世界各地の性売買についての資料を所

蔵している国際連合・国際連盟文書館（ジュネーブ）において、婦女売買禁止の国際的な取組みと世界各地における性売買の調査などの資料も収集した。中国南京の慰安所跡に関する現地調査もおこなった。

また日本国内においても日本の外交文書や自治体などで収集されている米軍資料、国立公文書館や靖国偕行文庫、しょうけい館図書館、沖縄県公文書館、奈良・石川・岡山・倉敷・福岡などの県立・市立図書館などで日本軍「慰安婦」制度や公娼制に関する資料を収集した。

元日本軍慰安婦や米兵相手の性売買に関する現地調査や関係者からの聞き取り調査も並行して進めた。

米軍基地のある日本国内、沖縄などの調査と並行して韓国の米軍による性売買・性暴力の実態解明も進めた。韓国ではそれらの史料の発掘と研究が進んでいることから、そうした成果の邦訳を進めた。またフランス軍の野戦売春宿の研究もフランスにおいて進み始めているので、そうした史料や研究の邦訳も進めた。英国での英軍に関する史料も調査し、日本軍と米軍の比較だけにとどまらず、日米両軍が世界史の中でどのような位置にあるのか、についても理解に努めた。

そうした調査をおこないながら、ドイツ・ハンブルクにおいて、ドイツ国防軍と強制収容所における売春宿、ドイツ軍のセクシャリティに関する研究者らとともにワークショップをおこない、国際比較をおこなううえでの最新の視点と視野を得ることができた。またノイエンガメとラーベンスブリュック強制収容所を訪問しそれらにおける囚人用売春宿の最新の研究成果を得ることができた。

また韓国の米軍基地周辺に生まれた基地村において米兵向けの性売買に従事した女性たち、いわゆる基地村女性に関する研究が進んでいることから、韓国研究者を日本に招いて研究会をおこない、さらに韓国ソウルで基地村女性に関するワークショップを開催し、韓国における最新の研究成果を得るとともに研究交流をおこなった。またピョンテク基地村女性を支援している団体を訪問して聞き取り調査をおこない、その実態を把握することができた。

このようにして、史料調査を重視してその関連史料の収集をおこないながらも、ドイツや韓国などの研究者との研究交流もおこない、世界史的な視野で日米両軍の問題をとらえるように努めてきた。

4. 研究成果

日本軍「慰安婦」制度と日本の公娼制に関してはすでに多くの史料が見つかっているが、さらにいくつもの史料を収集することができた。また「3」で述べたような国内外での調査活動を通して多くの関連史料を収集することができた。沖縄を含む日本や韓国での聞き取り調査によりオーラル史料も収集した。

これらの収集した史料に基づき、いくつかの研究成果を論文や学会発表の形で発表した。また収集した史料が広く研究者や市民によって利用できるように全9巻の史料集も刊行した。

日本での研究の進展を受けて、ドイツでも国防軍や強制収容所での売春宿、ドイツ軍による性暴力の研究が進みつつある。韓国においても、朝鮮戦争時の韓国軍「慰安婦」や米軍「慰安婦」の研究が始まり、日本軍慰安婦問題と合わせて、国家による女性の人権侵害という普遍的な視点からの研究が進められてきている。この二つの国の研究者と研究交流をおこない、それぞれの国でワークショップと現地調査をおこなった。

また英軍や仏軍など欧米諸国の軍隊と性に関する文献・史料の収集と整理もおこない、日本軍と米軍の世界史的な位置を明らかにしようとした。

こうした調査研究活動を通じて、日本軍のケースと米軍のケースについてその違いと相互関係についてかなり把握できるようになってきた。しかし世界史的に見ると、近代の規制主義は欧州で誕生展開し、同時に婦女売買禁止条約などの取り組みも国際連盟の下、欧州主導で進められてきた。日本は欧州の影響下に公娼制を導入するが、その後の展開は欧州とはかなり異なっている。1930年代以降の日本軍「慰安婦」制度の導入は自由民主主義諸国とは大きく異なる方向に進んだことを意味している。また米国は禁止主義と公式政策として採用しながらも、日本や韓国では性売買を非公式的に利用する対応をとるなど、欧州諸国とも異なった動きを見せる。

英国、フランス、ドイツなど欧州諸国における軍隊と性に関する研究動向も把握でき、そうした認識の深まりのなかで、日本と米国の比較だけでは世界史のなかでの位置づけとしては不十分であることが明確になった。日本軍「慰安婦」制度を世界史のなかで位置づけるためには日米比較だけでは不十分であり、欧州を含めて国際比較が必要であること、19-20世紀における規制主義の形成展開衰退の過程を踏まえて、軍隊と性売買の問題をとらえる必要があることも強く認識するようになった。と同時に、本共同研究により多くの関連する研究成果や史料を収集し、かつ史料状況を把握することができたし、国際的な研究者とのネットワーク作りを進めてきたことにより、そうした日本軍「慰安婦」制度を世界史のなかで位置づける研究が可能な条件を作り出せたと言える。

そういう意味でも本共同研究は、さらなる研究発展のために重要な貢献ができたと思う。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計12件)

吉見義明「吉見裁判と日本軍「慰安婦」問題」『女性・戦争・人権』15号、2017年、9-23

頁、査読なし

吉見義明「ある元日本軍「慰安婦」の回想(7)李玉善さんからの聞き取り」『中央大学論集』38号、2017年、85-125頁、査読なし、

兼子歩「アメリカ南北戦争の記憶の社会経済史的研究 南北戦争後の半世紀をめぐる議論を中心に」『明治大学教養論集』527号、2017年、89-113頁、査読なし

吉見義明「ある元日本軍「慰安婦」の回想(6)金福童さんからの聞き取り」『中央大学論集』37号、2016年、207-241頁、査読なし、

林博史「日本軍「慰安婦」研究の現状と課題」『歴史評論』2015年、29-40頁、査読なし

林博史「資料紹介 フランス人女性への監禁強かん事件 フランス・サイゴン裁判第12号事件」『季刊戦争責任研究』第85号、2015年、96-100頁、査読なし、

林博史「資料紹介 沖縄・宮古島における日本軍慰安所」『季刊戦争責任研究』第84号、2015年、71-73頁、査読なし

小野沢あかね「性奴隷制をめぐって 歴史的視点から」『季刊戦争責任研究』84号、2015年、2-11頁、査読なし

吉見義明「ある元日本軍「慰安婦」の」回想(5)」『中央大学論集』36号、2015年、59-73頁、査読なし

兼子歩「アメリカ売買春史研究の展開 革新主義期を中心に」『歴史学研究』925号、2015年、38-49頁、査読あり

林博史「資料紹介 ジャワ島における日本軍「慰安婦」等強制事件」『季刊戦争責任研究』第83号、2014年、44-50頁、査読なし

林博史「資料紹介 「慰安婦」など性的強制事件と軍による隠蔽工作」『季刊戦争責任研究』第82号、2014年、17-29頁、査読なし

〔学会発表〕(計14件)

小野沢あかね「米軍統治下沖縄における性産業の重層的構造とホステスのライフ・ヒストリー 1960-1970年代コザ市」

兼子歩「アメリカ軍の売買春政策とジェンダーおよびセクシュアリティの歴史的展開 19世紀から第2次世界大戦まで」

：日韓共同ワークショップ「日韓米軍基地と性売買：歴史と政策」、本科学研究チーム・「日本軍『慰安婦』研究会」(韓国)、2018年2月

林博史「日本軍「慰安婦」研究の現状と課題」第2回日本軍「慰安婦」の研究成果と課題 学術会議、東北アジア歴史財団、2017年12月

Akane Onozawa, *Japanese Military's Comfort Women: Victims of Patriotism and Human Trafficking*, The 17th Berkshire Conference of Women Historians, Hofstra University (New York, U.S.A), 2017年6月

林博史「日本軍慰安婦問題の解決を阻んできた東アジアの冷戦構造」The World Congress for Korean Politics and Society 2017, 2017年6月

Hirofumi Hayashi, "Perspectives for International Comparison of Sexual Facilities for Military Personnel,"

Yoshiaki Yoshimi, "The situation of women in Japanese military "comfort stations" - The role of the Japanese military,"

Akane Onozawa, "The system of state-regulated prostitution and Japan's military "comfort women,"

: Workshop: Military, Sexuality, Violence: Sexual Violence and Sexual Exploitation of Women by German and Japanese Troops during World War II, Hamburg Foundation for the Advancement of Research and Culture. March 2017.

小野沢あかね「近代公娼制度と日本軍「慰安婦」問題 性奴隷制と日本人「慰安婦」」大阪歴史科学協議会例会、2016年11月。

Hirofumi Hayashi, "The accomplishment of our research on the Japanese military comfort women issue," Association for Asian Studies(AAS), Annual Conference, Seattle, March - April, 2016.

林博史「日本軍慰安婦制度はどのような犯罪か」シンポジウム日本軍「慰安婦」 歴史の真相と戦後認識、上海師範大学、2015年6

月

兼子歩「同性婚運動と現代アメリカ・リベラリズムの限界」日本アメリカ学会、2015年6月

吉見義明「日本軍「慰安婦」問題と歴史学」東京歴史科学研究会、2014年

Hirofumi Hayashi, "Japanese Military Sexual Slavery Issue and State Responsibility through Historical Documents," International Conference for Justice to the survivors of Japanese Military Sexual Slavery and Stop Violence against Women in Armed Conflicts, Paris Diderot University, November 2014.

〔図書〕(計21件)

Nishino Rumiko, Kim Puja and Onozawa Akane eds., *Denying the Comfort Women: The Japanese State's Assault on Historical Truth*. New York: Routledge, 2018. pp.288.

吉見義明「日韓「合意」の何が問題なのか」中野敏男ほか編『「慰安婦」問題と未来への責任』大月書店、2017年、277頁(40-52)

吉見義明「日本軍「慰安婦」問題と歴史学」東京歴史科学研究会編『歴史学を学ぶ人々のために』岩波書店、2017年、323頁(71-107)

林博史監修『日本占領期 性売買関係 GHQ資料』全9巻、蒼天社出版、第1~3巻、2016年、第4~9巻、2017年、全2698頁

小野沢あかね「性売買・日本軍「慰安婦」問題と国家・社会」歴史学研究会編『第4次現代歴史学の成果と課題 2 世界史像の再構成』績文堂出版、2017年、303頁(147-164)

小野沢あかね「フェミニズムが歴史修正主義に加担しないために 「慰安婦」被害証言とどう向き合うか」『「慰安婦」問題と未来への責任』大月書店、2017年、277頁(152-172)

小野沢あかね「戦前日本の公娼制度と性奴隷認識」日本軍「慰安婦」問題 web サイト制作委員会編『性奴隷とは何か シンポジウム全記録』御茶ノ水書房、2016年、133頁(43-59)

小野沢あかね(共著)『沖縄県史 各論編 8 女性史』沖縄県教育委員会、2016年、604頁(400-419)

兼子歩、貴堂 嘉之ほか『「ヘイト」の時代のアメリカ史：人種・民族・国籍を考える』彩流社、2016年、292頁(7-23,71-94)

林博史『日本軍「慰安婦」問題の核心』花伝社、2015年、364頁

林博史・原田敬一・山本和重編『地域のなかの軍隊 9 地域社会編 軍隊と地域社会を問う』吉川弘文館、2015年、237頁

殷燕軍・林博史編『アジア共同体と日本』

花伝社、2015年、256頁

林博史「サンフランシスコ講和条約と日本の戦後処理」『岩波講座 日本歴史 近現代 5』岩波書店、2015年、314頁(1-38頁)

Hirofumi Hayashi, "The Japanese Military "Comfort Women" issue and the San Francisco System," in Kimie Hara ed., *The San Francisco System and Its Legacies: Continuation, Transformation, and Historical Reconciliation in the Asia-Pacific*, London & New York, Routledge, 2015. pp.290(162-182)

林博史編『地域のなかの軍隊6九州・沖縄大陸・南方膨張の拠点』吉川弘文館、2015年、231頁

「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクション・センター編、西野瑠美子、小野沢あかね責任編集『日本人「慰安婦」 愛国心と人身売買と』現代書館、2015年、265頁

林博史『暴力と差別としての米軍基地 沖縄と植民地 基地形成史の共通性』かもがわ出版、2014年、175頁

日本軍「慰安婦」問題 web サイト制作委員会編、吉見義明・西野瑠美子・林博史・金富子責任編集『Q&A 「慰安婦」・強制・性奴隷 あなたの疑問に答えます』御茶ノ水書房、2014年、151頁

林博史「日本軍「慰安婦」問題に取り組むアジア市民の交流と連帯」矢嶋道文編集責任『クロスカルチュラルスタディーズ シリーズ1 互惠<レプロシー>と国際交流』クロスカルチャー出版、2014年、409頁(323-349)

小野沢あかね「芸妓・娼妓・酌婦から見た戦時体制」歴史学研究会・日本史研究会編『「慰安婦」問題をノから考える』岩波書店、2014年、257頁(89-129)

④小野沢あかね「戦間期の家族と女性」『岩波講座日本歴史 第17巻近現代3』岩波書店、2014年、313頁(109-139)

〔その他〕

特になし

6. 研究組織

(1)研究代表者

林 博史 (HAYASHI HIROFUMI)

関東学院大学・経済学部・教授

研究者番号：80180975

(2)研究分担者

吉見 義明 (YOSHIMI YOSHIAKI)

中央大学・商学部・名誉教授

研究者番号：40102884

(3)研究分担者

小野沢 あかね (ONozAWA AKANE)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：00276700

(4) 研究分担者

兼子 歩 (KANEKO AYUMU)

明治大学・政治経済学部・専任講師

研究者番号：80464692